

188cm望遠鏡改修計画の概要

2012-08-07

泉浦秀行

国立天文台岡山天体物理観測所

+

今田明、浮田信治、沖田喜一、神戸栄治、黒田大介、小矢野久、
坂本彰弘、清水康広、筒井寛典、戸田博之、福井暁彦、柳沢顕史
(五十音順)

改修の目的

「太陽系外惑星系探索の自動化」（科研基盤A）

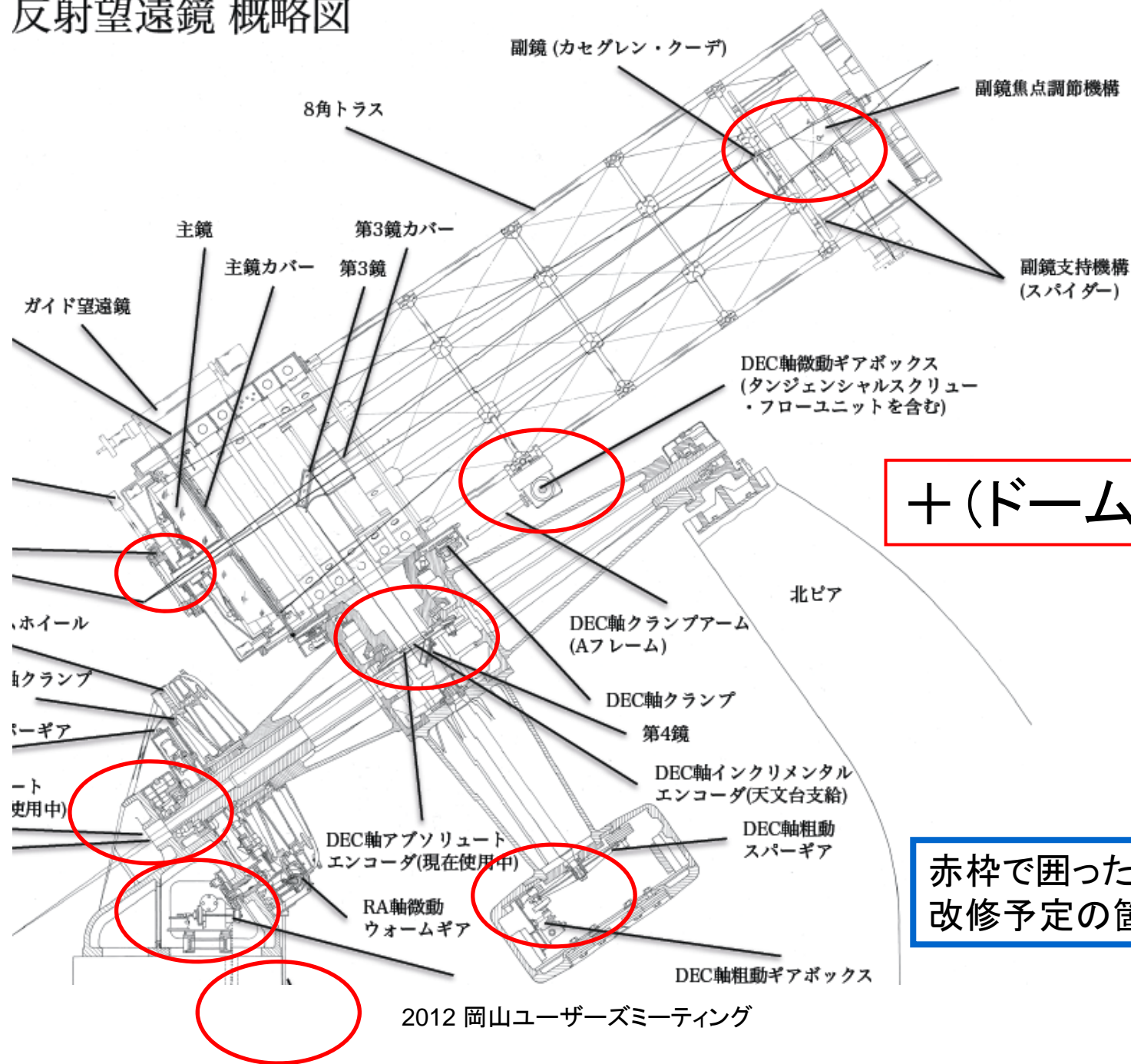
188cm望遠鏡を改修し、観測機能を向上させる。

- 太陽系外惑星系探索の自動化率を高める。
- 観測能率を高め、かつ、研究者を観測のロードから解放する。
- 太陽とは異なる環境下にある惑星系について広く知見を得る。

注1) 一般共同利用に同じ効果がもたらされる(と信じてます)。

注2) 光赤外大学間連携事業からは188cm望遠鏡の即時対応観測への対応が求められている。

反射望遠鏡 概略図



+ (ドーム制御)

赤枠で囲ったところが改修予定の箇所

到達目標

- ポインティング精度 (PAの結果) で 1.5 arcsec (RMS) を達成 (したい)。
- 全天のどこでへでも2分以内で ポインティング完了 (させたい)。
- トラッキング精度を0.1arcsecレベル (にしたい)。

共同利用観測への影響

- 3か月間の改修工事を予定しています。
- 2013年1月～3月を予定しています。
この期間は完全に観測停止の予定です。
- 2013年4月～6月は再立ち上げ期間になります。
従来の安定した共同利用には不安があります。
この期間の運用形態は今後見定めて行きます。

以上